

## 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)8242
担当部課名	環境保全部	みどり対策	課	
事務事業名	相模川ふれあい科学館運営事業施設維持補修費		事業コード	22120

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	水やみどりの保全と創造に努めます	事業開始年度
基本施策名	第1節	相模川の保全と魅力づくり	~63 年度
施策名	第2施策	相模川の魅力づくり	

## 2 実施根拠及び関連法令等

相模川計画
-------

## 3 事業概要

(1) 事業の目的	(2) 対象(誰、何)
昭和56年に策定した「相模川計画」に基づき、相模川の自然に親しみ自然を守り育てる心を育み、市民文化の向上に寄与するため設置した「相模川ふれあい科学館」の施設修繕等の経費	相模川ふれあい科学館の建物・施設、来館者
	対象数
(3) 平成13年度事業の内容	(4) 総合計画・実施計画における概要
施設維持補修費 CG水槽システム修繕 3,780千円 第2駐車場植栽修繕 199千円 公共下水道接続工事 17,850千円 水盤給水管増設工事 233千円 周辺案内板修繕 276千円 アルキメデスポンプ修繕 299千円	相模川への理解を深める場となる相模川ふれあい科学館の再整備の検討を進めます。
	(5) 個別計画の概要
	計画名 相模川計画第2次基本計画
	計画年次 平成5年度~平成22年度
	相模川ふれあい科学館のリニューアル

## 4 評価指標

指標名			
指標式			
指標設定の意図			

## 5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標			a	b		
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	588	630	22,637	24,558	15,000
	人員・時間数	0.02人	0.02人	0.1人	0.1人	0.3人
	人件費	177	177	885	885	2,655
	その他経費					
	合計	765	807	23,522	25,443	17,655
特定財源						

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 =
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%> )	

$\frac{a}{b} \times 100 =$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
----------------------------	----------------------------	----------------------------

理由： 施設修繕や公共下水道接続のための改修など必要不可欠な経費である。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か

評価 A ▼	A : 適応している	理由： 必要不可欠な施設維持費用である。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か

評価 B ▼	A : 妥当である	理由： 施設の老朽化が一因であり、計画的な改修を行わないと二重投資になる場合がある。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か

評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由： 市の施設の修繕である。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか

評価 B ▼	A : 満足できる	理由： 展示施設等の更新を求める声が高まっている。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か

評価 B ▼	A : 有効である	理由： リニューアル時に二重投資となるような高額な修繕が発生しつつある。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明：</p> 計画的な再整備の実施
	<p>コスト改善余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明：</p> 施設全体の老朽化によるため

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較	ふれあい科学館は本市独特の施設であるが、一般的に展示物等については5年から10年で更新する必要があるといわれている。ふれあい科学館は開館以来15年が経過するが展示物は当時のままであるため、その更新が求められている。建物についてもひび割れ、雨漏りなどが目立ち始めている状態であり、対処的な修繕を繰り返すことは好ましくない。
		説明
今後の進め方		再整備計画を立て、なるべく早くリニューアルを実施する。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	
<input type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了	

8 二次評価における変更点